

## 全国がん罹患推計値の信頼区間の算出

雑賀 公美子\* 加茂 憲一 片野田 耕太 祖父江 友孝

### 1. 背景

日本のがん罹患数は、一定の登録精度の基準を満たした地域がん登録からの情報による全国推計値であり、がん対策情報センターのホームページにおいて1993年から2004年の推計値が公表されている。これらの推計値には信頼区間が提示されておらず、さらに年によって推計に利用される地域が異なることなどが問題視されているため、本研究では推計に用いる地域の違いに注目して、罹患推計値の信頼区間を算出することを目的とした。

### 2. 方法

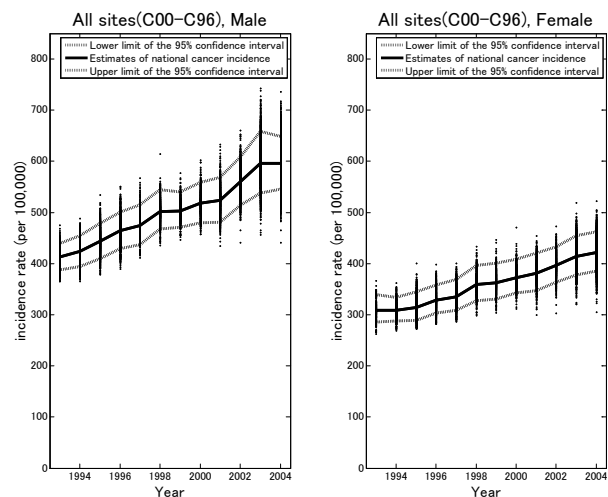
全国がん罹患モニタリング集計において収集された地域がん登録のうち、以下の2条件を満たした登録を全国がん罹患推計値に用いる。2つの条件は、1) 全部位（男女計、全年齢）において、死亡情報のみで登録された患者割合（DCO割合）が25%未満、または死亡情報で始めて登録室が罹患を把握した患者割合（DCN割合）が30%未満、2) 罹患・死亡比（IM比）が1.5以上、である。1993年から2004年で条件を満たした推計に使用可能な各年10-14地域がん登録データを用い、全ての地域の組み合わせにおいて推計した罹患推計値の分布から95%信頼区間を算出した。

### 3. 結果

全部位（ICD-10: C00-C96）の推計罹患率の信頼区間の幅は、男性では推計値の6-10%、女性では推計値の7-10%であった。

### 4. 考察

推計に利用する地域の違いに注目し、信頼区間を算出したことで、利用する地域がん登録データのの違いによって、推計値が男女とも6-10%変化することが明らかとなった。本研究における信頼区間の算出は、推計に用いる地域の違いについてしか検討しておらず、データの登録精度や推計に含まれる地域と含まれない地域との違いなどについては考慮していない。罹患数の推計において、さらなる推計方法の検討が必要である。



\*国立がん研究センターがん対策情報センター  
〒104-0045 中央区築地5-1-1